

00のファセットが生み出す、
光の迷宮に魅せられて。

燐然と輝くペアシェイプのセンターストーン
は、30.21カラットを誇る。大粒のアブソル
ト・ビュア・ダイヤモンドは、純粹に炭素のみ
で構成されている。ダイヤモンドのなかでも
極めて希少なもの。00面のカットにより、どこ
までも続いた光の乱反射は吸い込まれそうなほ
ど。リング[PT×ダイヤモンド]/カルティエ



Cartier Royal

カルティエが生み出す、
最高級の小さな建築。

「王のための宝石商、宝石商の王」と呼ばれたカルティエ。
その名の通り、ヨーロッパの王侯貴族やインドのマハラジャたちから
厚い信頼を寄せられ、ジュエリーの製作を依頼されてきた。
歴史のなかで培われてきた審美眼と技術によって磨かれるべく、
世界中から希少な石がカルティエの元へと集まってくる。
そこから真にカルティエらしいデザインに相応しい石だけが選ばれ、
独自のモダニティを纏ったジュエリーとなって、さらにその価値が高められていく。
20世紀初頭からアール・デコの流れを汲む幾何学的なデザインを得意としてきた
カルティエのジュエリーは、どれも“小さな建築”と言えるほど構築的。
9月11日～21日にパリで開催される第27回アンティーク・ビエンナーレでは、
“エクセプショナル・ストーンズ(類い稀なる石)”をテーマに、
カルティエの伝統と技術の結晶である至高のハイジュエリーが披露される。
歴史的建造物グラン・パレで発表される、この新作ジュエリーたちを、
きらめくピラミッドやコロシアム、バゴダに見立てた、今回の特別撮影。
それはまるでジュエリーの世界遺産をめぐる旅のように、
私たちを輝きに満ちた、壯麗な美の迷宮へと導く。

Photos JEAN-JACQUES PALLOT Artwork LAURENT DEBRAUX Cooperation EKO SATO



白と黒の対比が生み出す、
オブティカルアートのコロシアム

最新のコンピュータグラフィックスによって設計が可能になったという、現代ならではのウルトラモダンなデザイン。ダイヤモンドが波打つ3つの層は、ハネのような構造で伸縮可能。硬質なもの、というジュエリーの印象を見事に裏切ってくれる。ブレスレット[PT×ダイヤモンド]／カルティエ

ダイヤモンドが重なるリングは、
崇高なパゴダのよう。

アール・デコのスタイルを受け継ぐ、モダンな造形が美しい。真上から見ると正方形のなかに幾何学的な模様が浮かぶ構築的なリングは、横顔も極めて端正。ダイヤモンドの層の間に挟まれたブラックラッカーが、まぶしいほどの輝きをより一層引き立てる。リング[PT×ダイヤモンド]／カルティエ





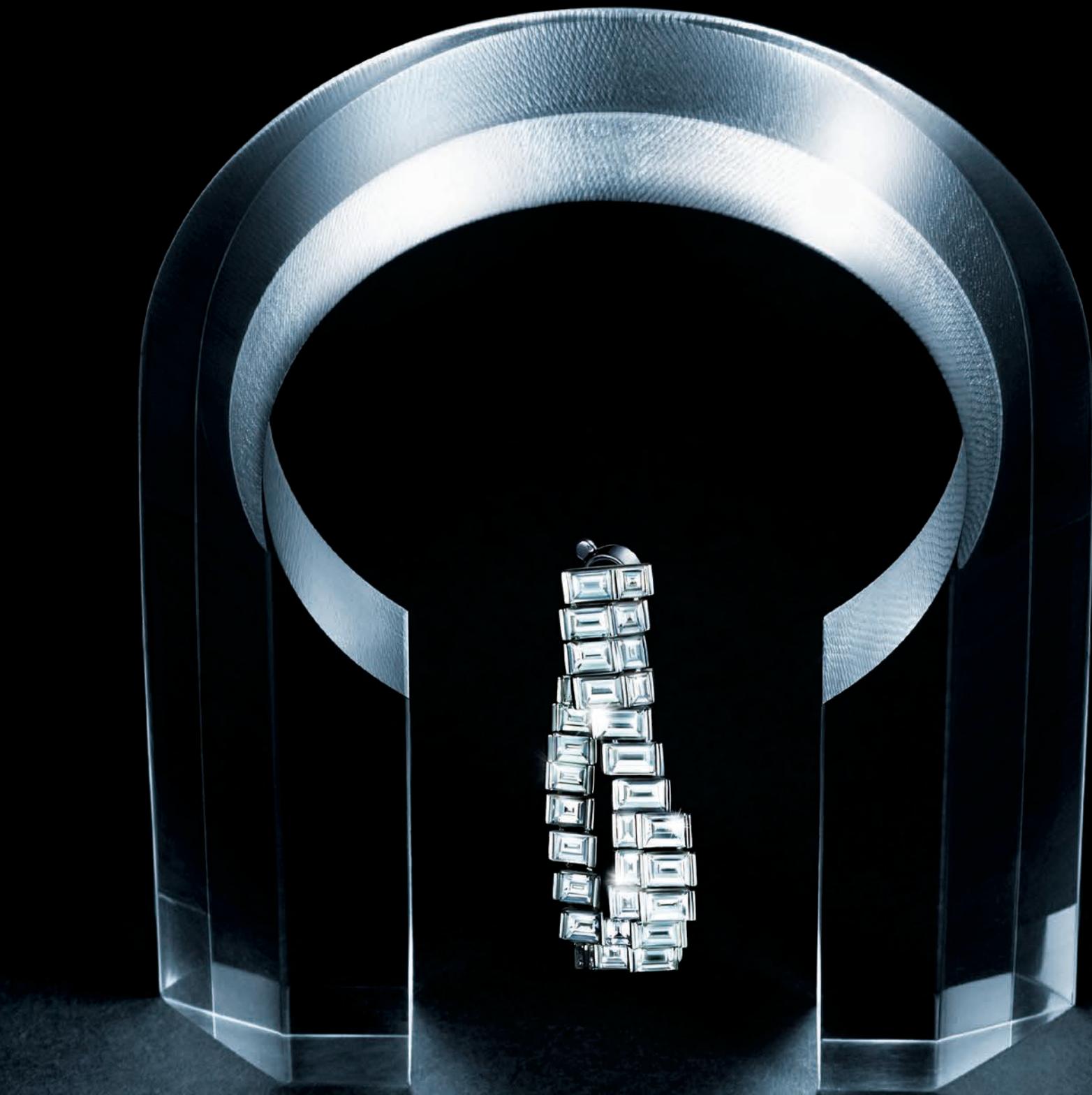
太古の記憶を秘めた、
エメラルドを祀るピラミッド

マチュピチュの段々畑のようにも、マヤのピラミッドのようにも見える、幾何学柄のダイヤモンドに包まれるのは、26.60カラットのコロンビア産オールドマイン・エメラルド。オールドマイン特有の繊細な結晶と炎のようなさらめきが、個性的なクッションシェイプによってみずみずしく深い色合いを放つ。ネックレス[PTXエメラルド×ダイヤモンド]／カルティエ



どこまでも神秘的な、
湖面に映るキリマンジャロ

光の反射ではなく石そのものもつ美しさを
引き立てる、カボションカットのタンザナイトを
頂きにあしらったクリスタル製のバングル。透
明感のなかに、オニキスとダイヤモンドのライ
ンでモダンなコントラストを与えたカルティエ
らしい逸品。バングル[WG×タンザナイト×ダ
イヤモンド×オニキス]／カルティエ



暗闇のなかに浮かぶ、
光の階段に導かれるままに。

イスラム建築を思わせるアーチの向こうに
は、メビウスの輪のようにどこまでも続くダイ
ヤモンドの階段が、直線的でシャープな輝き
を生み出すダイヤモンドのカットは、その名も
“ステップ”カット。光のグラデーションを上
った先には、何が見えるのだろう？ カルティエ
ブレス[PT×ダイヤモンド]／カルティエ